

奈良時代の官道 みつけ！

幅約6メートル

松崎六本松遺跡で古代の道路跡が発見されました。
これは、奈良時代(約1300年前)に整備された官道の一部と考えられ、律令国家体制の整備がこの地域でも進められていたことがよくわかる重要な発見です。

圃文化財課 ☎75-7555

埋蔵文化財調査センター
イメージキャラクター
つこっこ



つこっこ用語解説

かんどう

◆官道

国が造った古代の道路。
地形を無視した直線道
であることが多い

かんが

◆官衙

古代の役所のこと

みはらくん

◆御原郡

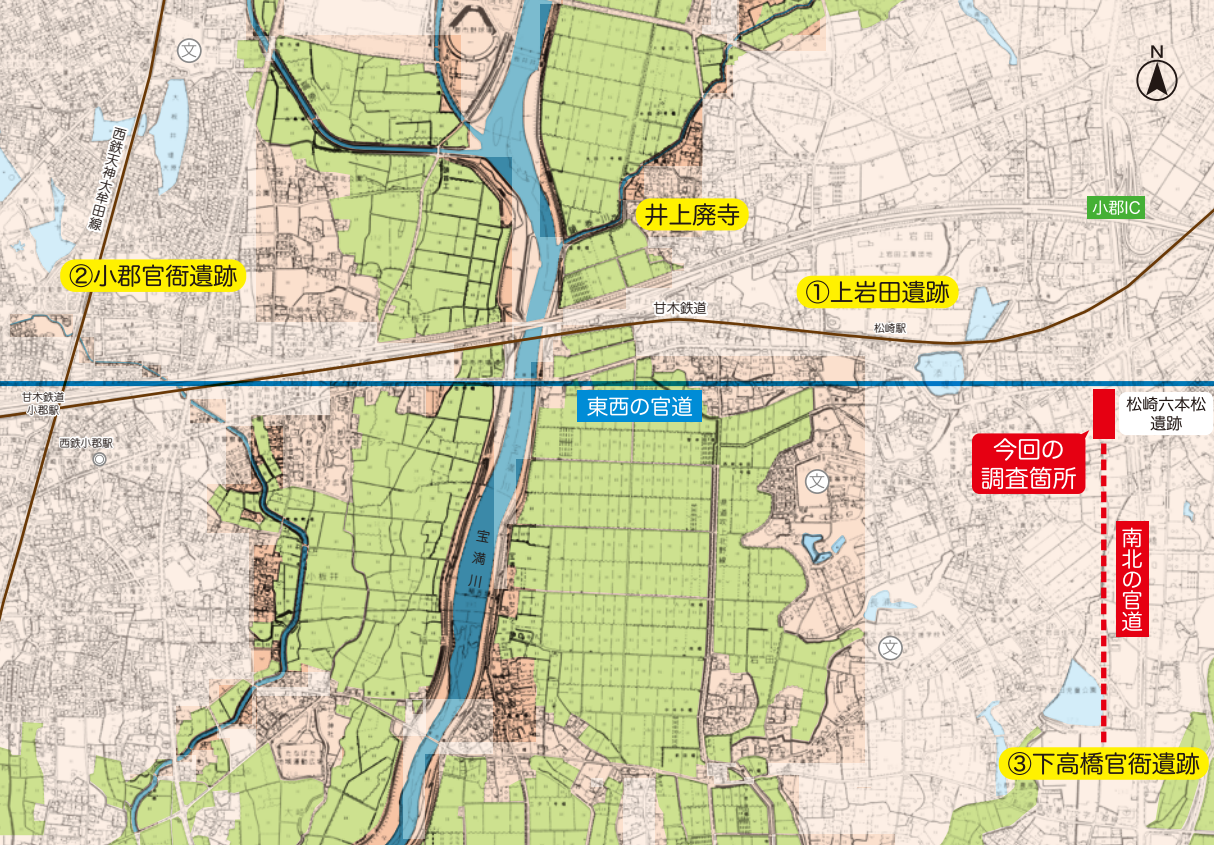
奈良時代、小郡や大刀洗の大部分は、御原郡と呼ばれる地域でした

松崎六本松遺跡や大刀洗町宮巡遺跡では、過去の調査により、筑後平野を東西に走る幅6メートルの8世紀代の古代官道(直線道路)が5キロメートル以上の規模で確認されました。付近には、変遷する「御原郡の官衙(上岩田遺跡・小郡官衙遺跡・下高橋官衙遺跡)などの重要施設が集中しており、今回の発見によって、東西や南北を主軸とする計画的な道路で結ばれていたことが明確になりました。これは、律令国家の地方統治がどのように進められたかがわかる重要な発見です。

古代の役所は官道でつながっていた

松崎六本松遺跡で発見された奈良時代の官道は、幅約6メートルで、長さ約100メートル。道路の両側には幅70センチメートル、深さ60センチメートル程度の側溝があります。これまでに下高橋官衙遺跡(大刀洗町)で確認された道路と方向・規模が一致し、そこから北側へ1キロメートル以上続く直線道路であることが確認されました。

発見！100メートルの古代官道



側溝から出土した須恵器の破片

古代御原郡の役所の変遷

古代御原郡は、小郡市と大刀洗町の大部分の範囲にあたります。飛鳥時代にこの地域で最初の役所が上岩田遺跡に造られ、奈良時代前半に小郡官衙遺跡へ移転。さらに、奈良時代後半に下高橋官衙遺跡へ移転します。

役所の中心は移りますが、上岩田遺跡や小郡官衙遺跡もそれぞれ継続して役所機能の一部を担っていました。



つこっこ豆知識

上岩田遺跡は天武7(678)年に起こった震度6~7の「筑紫国地震」の被害を受けました。その後、新たに小郡官衙遺跡に役所、井上廃寺にお寺が作られます。1300年前の人々も見事に災害からの復興を果たしているのですよ。



▲ 3月13日に開催した現地見学会には、約80人が参加しました。

「今」につながる古代官道

現在の小郡市周辺は、鉄道や高速道路が縦横に交わる交通の拠点ですが、古代にも大宰府や筑後国府などの拠点を結ぶ幹線道路が通っていました。九州を南北に走る幹線道路は「西海道」とよばれ、現在の国道3号付近を通っていたと考えられます。

小郡市で確認されている東西を結ぶ官道は、現在の国道500号にほぼ沿うように走っています。今回見つかった官道は、東西の官道から下高橋官衙遺跡へと接続するものです。

こうして現在の幹線道路と1300年前の古代官道をくらべると、当時の都市計画が今につながっていることがよくわかりますね。